

## 児童発達支援事業所における自己評価結果(重心)

		チェック項目	はい	どちら でもな	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	5	1	活動により部屋を変えている。お昼寝ができる環境を整えている。	
	2	職員の配置数は適切である	7	6	0	利用児に対して十分所属している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	6	5	車いすでも入室できるようにバリアフリー化をしている	一部しかバリアフリー化できていない為、事業所全体で整えていきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	7	0		活動後の清掃や共有物の消毒等を行い、清潔な空間に保たれるようにしている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	7	0	職員会議や目標管理面談の中で業務改善の話合いを行っている。	具体的に実行できているものとそうでないものがある。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	5	0	第三者評価など、外部機関を通じて事業所評価を行っている	評価結果は後日ホームページで公開していく
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	5	1	事業所評価についてはホームページ上で公開している。	公開情報が分かり難い場合もあるため、ブログなどでも発信していく。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	8	5	0	第三者評価に入ってもらっている。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	5	0	職員会議などでも職員勉強会を行っている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	6	1	アセスメントシートと保護者要望書を用いて個別計画を立案している	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	5	0	事業所で使用しているアセスメントツールを用いている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9	4	0	発達支援・家族支援・地域支援の3本の柱を基に個別支援の内容を検討している。	保護者の要望からお子さんにニーズを把握し、各項目のどこに当てはまっているか検討し、実施している。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	7	0		一人ひとりに沿った支援を個別支援計画を基に実施しています。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	7	0	担当者会議などの中でも話し合っている。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	5	0	固定化しないようにその日ごとに考えている	月案などで大まかな枠組みを作り、デイリーに反映させている。

	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	9	4	0	お子さんの能力に合わせた活動計画を立案している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	4	0	朝礼でその日の活動を支援者で共有している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	4	0	毎日終礼で振り返りを行っている。	終礼の中で話し合った内容を次の支援に活かしている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	5	0	個別支援計画書の内容に沿って記録を残している	支援以外の相談や懇談なども記録に残している。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	5	0	モニタリングと家庭訪問を行い、計画を見直すようにしている	家庭訪問の回数を増やすことで、密な情報共有を行っていききたい。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最も心ざわしい者が参画している	6	7	0	相談員と保護者とでサービス担当者会議を行っている。	在籍園がないお子さんが利用しているため、所属が増えた際には、所属園の先生にも参加してもらう
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	7	0	必要に応じて保健師ともつながっている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	8	0	訪問看護や担当主治医のいる病院と連携している。リハビリの見学なども行っている。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7	6	0	医師の指示書を基に、事業所で必要なケアについて話している。	年に1回は情報共有を行う体制を整える。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	7	6	0	移行先があるお子さんが事業所を利用していない。	今後移行するケースについては実施していく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	10	1	移行先があるお子さんが事業所を利用していない。	今後移行するケースについては実施していく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	11	1	移行先があるお子さんが事業所を利用していない。	今後移行するケースについては実施していく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	10	0	敷地内の保育園の行事に参加している。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	8	5	0	参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	6	1	ケアコラボやお迎えの際の引き継ぎで情報を伝えている。	

	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	7	6	0	ペアレント・トレーニングや勉強会への参加案内を行っている。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	5	0	利用契約前に案内を行っている	個別に説明が必要な保護者への配慮も行える体制を整えている
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	6	0	個別支援計画書の説明の時には計画の目的や狙いなどを含めて保護者に説明している。	今後も懇談などで丁寧な説明を心がけて実施していきます。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	2	8	3	引継ぎや懇談・家庭訪問などで聞き取りを行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8	5	0	父母の会など、保護者同士がつながる機会が少ない	今後事業所として検討していきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8	5	0	保護者からの相談があった場合は、すぐに対応しています	今後も継続していきたい。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9	4	0	月に1回の通信や定期的な広報誌を保護者に配布している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	7	6	0	個人情報の取り扱いには十分注意している。	職員会議などでも個人情報の取り扱いについては話しをしている。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	1	10	2	選択の自由などの配慮を行っている。	意志表出が希薄な場合。配慮が十分であったか評価し難い時もある。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	7	6	0	法人内で実施する行事には、地域の方を招待して活動を実施している。	
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8	5	0	非常災害に備えたマニュアルを整備しています。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	5	0	月に1回避難訓練を利用児とともに実施し、災害に備えている。	
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9	4	0	医師の指示書や利用児の基本情報などから情報を集約している	災害時の予備薬の準備が整っていない為、整えていく
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10	3	0	アレルギーも43同様に把握し、必要に応じて栄養士も把握し食事提供を行う	
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	5	0	ヒヤリハットと事故報告を事業所内で共有している	管理者は法人内すべてのヒヤリと事故報告を確認することができる。

46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	3	0	虐待防止についての研修を事業所内で実施している。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8	5	0	身体拘束に関しては保護者に事前に説明し、実施している。是正に向けた話し合いも行っている。	身体的なハンディキャップがある場合は是正が困難なケースもある。